

寝屋川市屋外広告物ガイドライン策定 ワークショップニュース（第3回）

寝屋川市における今後の屋外広告物のあり方について検討を行う「寝屋川市屋外広告物ガイドライン策定ワークショップ」を平成 25 年8月 21 日(水)に開催しました。

- 3回目となるワークショップでは、前回の「まちあるき」でチェックした「4 駅周辺」の屋外広告物の現状と課題の整理、今後のあり方について、3グループに分かれてグループワークを行いました。

各グループでは、駅周辺にお住まいの地域住民の方、市内教育機関在籍の学識経験者・学生の方、商工関係団体の方、景観・屋外広告行政に携わっている市職員といった様々な立場の参加者が、それぞれの視点から見た屋外広告物に対する考え方などについて意見交換を行いました。

○グループワークの様子①

AグループからCグループに分かれて、「まちあるき」で実際に感じた駅周辺の広告物の印象や気になった点などの意見を出し合っていました。



○グループワークの様子②

駅周辺にお住まいの参加者からは、昔から現在に至るまでの駅周辺の街並みの変化などについてのお話などを聞くこともできました。



○グループワークの様子③

ワークショップの最後には各グループでまとめた「現状と課題」、「今後のあり方」などについて発表を行い、参加者全員で情報の共有を行いました。



○「広告物の現状と課題」、「広告物のあり方」についての意見(抜粋)

- ・「**寝屋川市駅**」：看板が見やすい。乱雑である。壁一面に看板が多く、情報過多になっている。大きさの統一などのルール作りが必要。ビル単位・隣接する建物間で高さを合わせる。屋外広告物のコンペの開催。
- ・「**萱島駅**」：看板自体は少なく、落ち着いている。道幅が狭いので壁面広告が見にくい。原色系の色を抑えて、看板の大きさも少し統一する。
- ・「**香里園駅**」：駅を挟んで、東西にそれぞれに個性があって良い。東側は、落ち着いている(モデル地区にしてみても)。新しい。キレイ。活気がない。西側は、賑やか。活気がある。派手、ゴミゴミしている。まちの特徴を活かすため西側、東側別々のルールづくりが必要。
- ・「**東寝屋川駅**」：住民にとっての看板。目的を持ってきた人にはわかりにくい。少し寂しい感じ。閑静で住みやすいイメージ。周辺の公共施設などの総合案内看板があれば便利。

○ワークショップの今後の予定

次回のワークショップでは、「路線沿道」における屋外広告物のあり方などについて意見交換を行う予定となっています。

○寝屋川市屋外広告物ガイドライン策定ワークショップ事務局
寝屋川市まち政策部まちづくり指導課審査指導担当（市役所本庁3階）
TEL：072-824-1181(内 2741、2743)
FAX：072-825-2618